愛板

愛知県
板金工業組合
名古屋市熱田区
森後町1丁目50
電話(681)4734
発行人　柴田嘉市

第九回通常総代会開催

永年勤続優良従業員表彰式を兼ねて

五月二十四日　勤労会館にて

第九回の通常総代会は、五月二十四日午後一時四十分から、名古屋市昭和区鶴舞の、愛知県勤労会館二階小ホールに於て、永年勤続優良従業員表彰式と併せて開催された。総代会に於ては昭和四十八年度収支決算に関して、四月二十五日開催の理事会に提案可決された、事務員の不祥事による損失金補填による書類の審議と、任期満了監事の改選が、議事の重なものであった。議案はいづれも異議なく可決、監事も全員再選留任と決まり、緊急提出議案、定款変更の件も、全員の賛成を得て可決、午後四時閉会した。

総代会開催に先だって挙行された永年勤続優良従業員の表彰式は、昭和四十三年の第一回から第四回目に当り、四十六年以来の開催のため被表彰者の推薦も多く、且今回は勤続二十年、十五年、十年の三段階にしたので、表彰者は一六五名の多数にのぼった。

式は午後一時四十分から総代会出席の総代と、理事監事及び被表彰者事業主臨席、表彰者夫々着席開催した。

先づ総代会をかねて林常務理事の開会の辞と、柴田理事長の挨拶後、表彰式に移り、勤続二十年四〇名、十五年五四名、十年七一名を各年別毎、名古屋市内と市外に分けて、その代表が受彰した。受彰者は表彰状と額縁及び事業主の心のこもる記念品が贈られ、一同を代表して岡部一男が謝辞を述べ閉式した。

記念品は二〇年朱竹を画いた掲額、一五年は同じく中型のもの、一〇年はタイガーポットであった。

尚表彰者氏名は別掲の通りである。

続いて第九回通常総代会に入り、司会者前田常務理事より、物故者慰霊の黙祷後、議長選任方法を諮り、司会者一任によって井沢市之助総代を指名、同氏が議長席に着き、司会者より今日の出席総代四二名、委任状二六名合計六八名、定員の過半数以上に達したので総代会の成立したことを述べ、よって議長は開会を告げた。

議案審議は次の要領である。

第一号議案　昭和四八年度事業報告書、収支決算書、貸借対照表、財産目録、損失金処分案承認の件

栗田副理事長より、配付した書類の内容について、朗読しつつ説明を加え、今期の収支に関して、昨年二月末発生の事務員の不祥事件による損金の計上に苦心した内容を述べた。

特にそのため年間の諸経費を極力節約し、実質的には約一〇〇万円程の剰余をあげつつも、被害額損金計上によって、逆に一三〇万円程の赤字補填のために、その当時理事長以下常務理事全員が、全板保険組合に対しての保険料支払のため立替えた金額の、二〇%を寄附拠出して、損失金を或る程度カバーしたことを盛り込んだ決算報告をなした。

説明後、監事羽柴弘和より監事会を五月十日に開き諸帳簿監査の結果、いづれも正確であった旨の報告があった。

議長はこの件に関し諮った処、一同異議なく拍手を以て可決した。

第二号議案、昭和四九年度事業計画並びに収支予算案承認の件

同じく栗田副理事長より事業計画と収支予算について説明があり、特に板金会館建設が四九年度事業の重点である旨を述べ、異議なく承認された。

第三号議案、役員改選の件

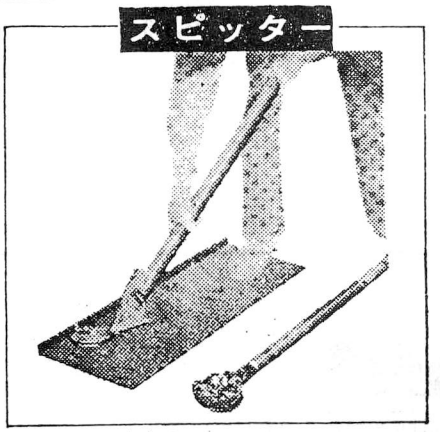
議長本件提案、柴田理事長より、現監事三名共任期満了のため改選されることになるが、いづれも適任と認められるので　そのまま留任を希望する旨の意思表示があり、議長一同に諮った処、異議なく川合久種、羽柴弘和、野々山良平の三名共留任が決定した。

このとき栗田副理事長発言を求め、緊急議案提出の申出でをなしたため、議長は定款第五一条に基き、出席総代の三分の二以上の賛意を得て提案を認めた。

よって栗田副理事長は定款変更の件を上提、提案理由として定款第五〇条による総代会の議長を、議事進行上、組合運営事情に精通している理事にも認めることの出来るよう定款変更したき旨を述べた。議長はこれを諮った処、全員の賛成をもって、定款第五〇条の「総代会の議長は総代会ごとに出席した総代または総代たる法人の代表者のうちから選任する」とあるを「総代会の議長は総代会ごと出席した、総代および総代たる法人の代表者または理事のうちから選任する」と変更することを可決した。

以上で全議案審議終了、議長はその旨を告げ降壇、司会者前田常務理事から、板金会館建設出資金の取扱い状況の報告があって閉会した。時に午後四時であった。尚、理事総代の支部内の都合による交代者は定員内のため選挙を行なわず氏名の発表があった（別掲）

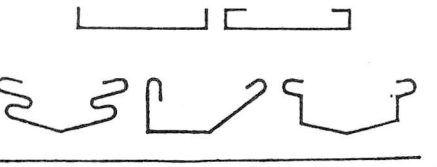
スピッター



CHIYOMITU

プレス・シーヤー
折曲機・ロール
各種板金機械
工具製作販売

下図の様な曲げ方に
使用されて居ります。



野口機械工業有限会社

■名古屋市中区長岡町1の27・TEL　名古屋〈052〉322－3911(代表)

貸借対照表

昭和49年3月31日現在

愛知県板金工業組合

資産の部 科目	金額	負債及び資本の部 科目	金額
流動資産	(2,525,138)	負債	(2,184,840)
現金	34,102	借入金	1,810,000
当座預金	9,092	未払金	250,000
普通預金	1,503,144	仮受金	58,840
定期預金	900,000	退職給与引当金	66,000
未収入金	40,800		
前払家賃	38,000		
		出資金及剰余金	(593,615)
		組合員出資金	1,202,000
固定資産	(253,317)	納税引当金	4,290
什器備品	105,317	任意積立金	140,000
出資金	130,000	前期繰越利益金	12,403
電話加入権	18,000	当期損失金	△765,078
合計	2,778,455	合計	2,778,455

財産目録

昭和49年3月31日現在

科目	摘要				金額
	資産の部				
現金	手持現金				34,102
当座預金	商工組合	中央金庫	名古屋支店		9,092
普通預金	富士銀行	金山橋支店	1,437,472		1,503,144
	商工中金	名古屋支店	65,672		
定期預金	商工組合	中央金庫	名古屋支店		900,000
未収入金	広告料				40,800
	野口機械	12,000	三和ペンチ	6,000	
	カクイチ	8,000	水原鉄工所	3,000	
	綿半鋼機	8,000	武豊屋商店	1,800	
	東邦シートクレーム	2,000			
前払家賃	未経過家賃	4月分	牛田		38,000
什器備品		期首簿価	償却費	期末簿価	105,317
	椅子	738	488	250	
	リコピー	2,500	0	2,500	
	保管庫	6,321	653	5,668	
	謄写版	1,700	0	1,700	
	机	37,822	2,376	35,446	
	ロッカー	9,456	594	8,862	
	書棚	13,800	751	13,049	
	計算機	39,000	1,158	37,842	
	計	111,337	6,020	105,317	
出資金	全日本板金工業組合連合会			100,000	130,000
	商工組合中央金庫			30,000	
電話加入権					18,000
	資産合計				2,778,455
	負債の部				
借入金	愛知県板金連合会	530,000			1,810,000
	柴田嘉市	640,000	栗田政雄	280,000	
	日比野定雄	100,000	前田義雄	100,000	
	豊田義成	40,000	岡戸林市	40,000	
	林吉三郎	40,000	樽井神夫	40,000	
未払金	職業訓練校及板金技能士会				250,000
仮受金	記念品代24,400	会館建設寄金30,000			58,840
	源泉所得税 4,440				
退職給与引当金					66,000
	負債合計				2,184,840
	差引正味資産				593,615

収支決算書

自　昭和48年4月1日
至　昭和49年3月31日

科目	決算確定額 款	項	目
(収入の部)			
Ⅰ事業収入	2,520,453		
1 購入手数料		35,803	
2 健保代行手数料		1,632,850	
3 労災代行手数料		367,800	
4 広告料収入		484,000	
Ⅱ事業外収入	4,338,108		
1 賦課金収入		3,091,700	
2 補助費収入		781,400	
3 預金利子		145,008	
4 雑収入		0	
5 借入債務免除益		320,000	
合計	6,858,561		
(支出の部)			
Ⅰ事業費	297,800		
1 調査研究費			
2 教育情報提供費			
3 広報費		297,800	
Ⅱ一般管理費	4,151,730		
1 人件費		2,903,871	
(1)職員給料			2,553,000
(2)厚生費			39,600
(3)退職給与金			0
(4)退職給与引当金繰入			54,000
(5)旅費交通費			180,950
(6)交際費			76,321
2 事務所費		444,000	
(1)家賃			444,000
3 需要費		437,503	
(1)事務用品費			58,233
(2)通信費			287,570
(3)水道光熱費			28,592
(4)消耗品費			63,108
4 会議費		360,336	
(1)理事会及委員会費			238,846
(2)総代会費			121,490
5 減価償却費		6,020	
(1)什器償却費			6,020
Ⅲ事業外経費	3,174,109		
1 租税課金		9,676	
2 諸会費		430,760	
3 印刷費		196,350	
4 助成金		250,000	
5 慶弔費		164,000	
6 雑費		44,473	
7 支払利息		32,400	
8 貸倒金		2,046,450	
当期利益金	△ 765,078		
合計	6,858,561		

全国に伸びる
アイデアの扇印製品
カラー組立雨樋
ビニパネル
金属タイル板
金属パネル
長尺雨樋
安田金属株式会社
本社事務所　大阪市北区兎我野63(日新ビル)　TEL (361) 3074
販売部　尼崎市杭瀬井新町4の16　TEL06(481)6041

鯱鉾

今年の通常総代会に併催された永年勤続優良従業員の表彰式に参列して、不覚にもホロリと涙を落しそうになった。感激は涙もろい老令のためなのかも知れないが、社会福祉施設の完備していない、又確たる従業規則や給与規定もない小規模な零細企業のなかにあって、十年、十五年そして二十年もの永い間、定着して今日の栄を受ける従業員を目の前に見て、板金業界の本当の力はこのなかに有ることをさとり、思わず感涙にむせんだのは、あながち私一人ではないと思う。

一般的に板金工を含む建設関係各職の定着性は良くない。極端な浮[illegible]でないまでも、身に付けた技能が反って災いして裸一貫、米の飯はついて廻るの昔からの感念は、今も尚残ってわけである。

実際にも建設企業態の特徴である下請制度は、工事毎の契約が多く、ジプシーのように移動が激しい。又福祉も給与規定もないだけに、恩給的年金、退職手当に対しても不安がある。従って打算的にもなりやすい。

然しである、そうした悪条件のもとに於て、営営と一つの事業所に永く勤務しているこの人達を見て、考えさせられるものがあるのである。

一口に居ごこちが良いというその裏には優遇や給与の良さもあろう。又事業主及びその夫人等の平素の暖かい配慮もあることであろう。

然しそれにもまして永年勤続されるのは、この人達の立派な精神に外ならない。

従業員の定着について

永年勤続受賞者をみて思う

定着の第一義は心と心のつながりに初まり、自分の仕事に愛着を持つことにあると思う。如何に優遇しても、それだけでは条件次第で他に移ることになる。人を愛し、仕事を愛する。この感念は使う人、使われる人共に持ってこそ、定着それ自体意識することなく、永続するものと思う。

板金業の向上、発展には技能の問題、経営の問題、機械器具の改良発明等種々の要素もあるけれども、それにも増して大切なことは、就労作業員の安定ではないだろうか

従業員を定着せしめるためには、給与をよくする、福利厚生を改善する労働日数、時間を短縮する等のことも必要であろう。然しどうしたら良くなるかと考えること自体作為的であって、定着にはつながらない。待遇をよくすることは定着するとしないとにかかわらず当然のことであって、意識しての行ないは反って逆効果を招くことにもなりかねない。意識せずとも自然の心と心とのつながりが何よりも大切である。

昭和48年　損失金処理

自　昭和48年4月1日
至　昭和49年3月31日

前期繰越利益金	12,403円
当期損失金	765,078
差引損失金	752,675
後期繰越損失金	752,675

以上の通りであります。
昭和49年5月

愛知県板金工業組合
理事長　柴田嘉市

以上昭和48年度決算書につき帳簿書類を対照監査の結果孰れも正確と認めます。
昭和49年5月11日

監事　川合久種
同　野々山良平
同　羽柴弘和

役員交代

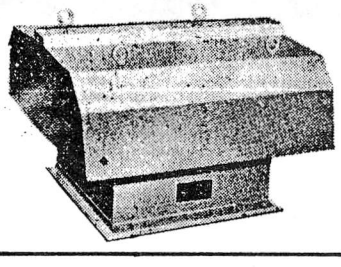
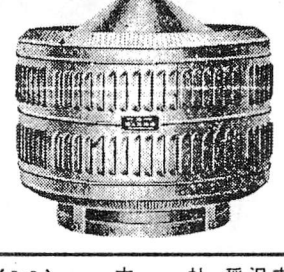
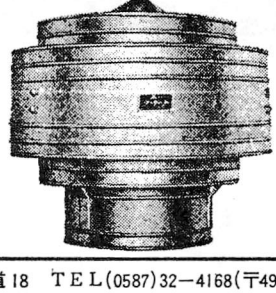
地区　旧　新

理事　中　長谷川高次　竹内義雄
熱田南　伊藤新蔵　清水正
一宮　樽井神夫　服部一代
小牧　橋本金治郎　玉置鉄三郎
知多　青木計男　磯崎欽伍
幡豆　二村恵三　鈴木新市

総代交代

昭和　福井正　長山清晴
熱田南　清水正　白井豊
碧南　小笠原裕　杉浦品充
〃　高橋正二郎　榊原清

株式会社 水原鉄工所
ロール成型機と板金機械工具
住所　大阪市港区波除1丁目4番78
TEL　06−583−1231
大阪環状線弁天町駅下車北へ6分

三和式ベンチレーター
屋上換気扇　K型

屋上換気扇　S型

固定式ベンチレーダー　D型

三和式ベンチレーター（株）
本社　稲沢市高重町中道18　TEL(0587)32−4168(〒492)
東京営業所　東京都清瀬市元町7−21　TEL(0424)91−0069(〒180-04)

アメリカに旅行して　その三

ラスベガス―ロスアンゼルス

栗田政雄

世界一のギャンブルを誇るラスベガスに着いてまず驚いたのは、空港へ降り立つと、ロビー、通路に並んでいるスロットマシン（硬貨を入れてハンドルを廻し絵を合せる）と、それに群がる人の数であった。つまり空港ターミナル自体がカジノなのである。

ラスベガスはカジノと共に、離婚の容易なことも、世界一とのことであったが、ネバダ洲の公営で洲の主な財源であるだけに、トバク場を意味する暗い影は無かったものの、退廃的雰囲気は一杯にただよっていた。

それは二十四時間営業と夜の十二時過ぎから始まるショーにも判るとおり、正常な生活様式は無視されているのである。

広大な砂漠の真中に建っているラスベガスの街に、若しカジノが無かったなら街の形態を為し得たろうか疑問に思うと同時に、ギャブルの恐しい力を見た思いであった。

我が国でも公営の競輪、競馬又は競艇、私設のパチンコ等は相変らず盛んでも一時乱立したボウリングが既に下火であるのは、ゲームにギャンブルが無いからであろう。賭けるということはスリルと同時に或る決意をともなうわけで、何事も優柔不断で決意に欠ける場合は成功しない。これは必ずしもギャンブルのみでなく、人生の総てに於てである。勿論勝負は実力プラス運がそれを左右する、運の無いものは如何に実力が有っても功を奏しない場合が多い。

ギャンブルにも上手下手があって、勝ち負けは運ばかりではないこともあるけれども、一番大切なことは見切りをつける決断ではないだろうか。

私達の一行にも徹夜の人もあったようで、勝った負けたと話し合っていたが、大低負けたときは余り発表せないものである。

このラスベガスだけではない。我が国の競輪、競馬でも、それから得る収益で社会施設が出来るだけでなく、それにたづさわる大勢の人の生活や又、馬等の飼育にも多額の費用が要するわけである、従って全体的には負ける率が多いことは自明の理で今更いうまでもない。

ラスベガスの遊蕩的な気分から現実に戻って視察したのは、ロスアンゼルスにある板金工場、スーレー、スチール社の見学であった。

今回の旅行目的は屋根、壁工法の視察であったが、実際には広く見たい欲望と時間との関係から、行動が目的からやや外れて、初期の思惑には遠い連日であっただけに、この工場へ来て初めて、自責の念が軽くなった思いであった。

然しこの工場からは期待した程の収穫は得られなかった。社の側は一行を歓迎してくれて、場内の撮影は総てOK、幹部クラスの人が親切に案内して下さったが、設備されているパネル（リブ型角波）の成型機、棟、水切、竪樋類、又は鉄骨フレームの加工等、特に感心したものは見受けなかった。然し二、三感じたこと をあげると、カラー鉄板のコイルが巾一米二〇〇で成型した働き巾が一米になるのが有ったが、メーター本意からすれば都合よく思われた。けれどもアメリカの現行ヤード、ポンド法から見てどんなものであろうか。

そしてこの工場で見たカラー鉄板も、薄い二色位であり、アメリカ各地を見て廻った鉄板加工の屋根、壁にも、多数の色は無かった日本でも最近、カラー鉄板の小数色限定が問題になっており、開発途上の売らんがための雑多な色も段々少なくなって、やがて落ちついた小数の色に統一されるのではあるまいか。

この工場（スーレー、スケールコンパニー）は鉄骨フレーム、パネル（断熱材接着もあり）ベンチレーターの製作、加工、施工の一貫事業の経営で、部品の自動式焼付塗装も作業していたが、規模は余り大きくなく、大体三、〇〇〇平米位であろうか。聞くところによると、アメリカの板金工事はこのような設備の処で受注、現場施工は従業労働者が当り、日本のような小規模な（一人親方のような）事業主は無いとのことである。資本家、経営者から労務者への線が主流で、こちらの営業主即ち労務者は少ないわけである。

以上三回に分けて旅行の報告を書いて思うことは、視察、研究、調査には、広く浅く見ることは駄目で、目標を絞って深く掘り下げなければ目的は達せられないことである。

限られた時間に欲深く廻ることは所詮観光旅行の範囲を出ず、おそまつな見聞記で申訳ない次第である。

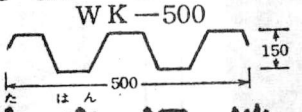
母の日　五月十二日

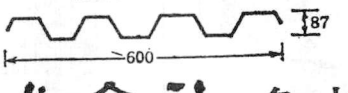
内助の功を称え蔭の功労者を表彰

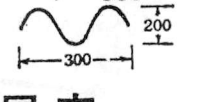
十周年を迎えた愛知県板金技能士会の記念式典

昭和三十八年創立以来、技能検定、職業訓練、並びに青壮年層の板金技術の向上のため、鋭意活躍して来た愛知県板金技能士会は、今回創立以降満十年を経過したので、その記念式を挙行、今後運営に努力された役員三十八名に、感謝状を贈ると共に、板金業者の夫人として常に業務を扶け、後継者の育成、従業員の福祉定着に努め、家業の内助の功のあった夫人七十二名の、第二回目の功労表彰が行なわれた。式は午前十時より、名古屋市昭和区の鶴舞、愛知県勤労会館小ホールに於て華々しく開催。開会の辞の後、柴田会長（本組合理事長）の挨拶後、技能士会役員に対する感謝状の贈呈があり、続いて夫人の表彰式に移った。受彰者七十二名の表彰状は各地区毎の代表者が受彰し、記念品としてのメダルは、各人の表彰者氏名が刻印され、赤白のリボンにつけられた

（次頁へ）

軟質ポリエチレン高周波融着
WK　ゼット　鋼板
アワセ式折版構造
小牧工場完成!!　即納体制完備・多少にかかわらずご用命下さい
WK―500


WK―ルーフ


V―300


折版構造のベストスリー
ESTABLISHED 1598
Watahan
綿半鋼機株式會社　名古屋店
名古屋市中村区花車町1丁目55番地（花車ビル北館）
電話　名古屋〔052〕586―2556　（代表）　御一報次第係員参上致します
静岡店・浜松店・三島店・豊橋店・大井川鉄構工場・飯田店・伊那店・岡谷店・松本店・松本鉄構工場・東京管理本部

メタルを、会長自ら一人一人の首にかけて廻り、満場の拍手裡に称賞の雰囲気は高まった。

式は来賓の祝辞受彰者代表、前田はるさんの謝辞があって閉会。

その後、祝賀パーティに入り、役員、来賓、被表彰者、夫々のテーブルにつき乾盃懇親の交歓が続いて、和やかに時が過ぎた。

永年勤続優良従業員表彰者氏名

二〇年

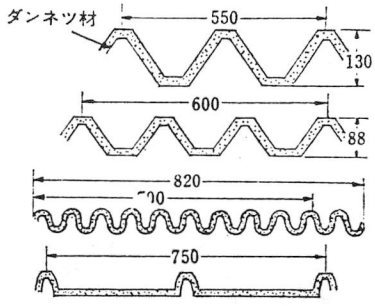
事業所	氏名
(東北)	
日比野商店	福島準二
栗田板金工業所	岡部一男
〃	小島勅彦
田辺商会	大谷英一
(中)	
竹内金属工業	藤島富士雄
〃	川辺銀蔵
〃	河合秀邦
大竹金属	内藤定吉
藤金製作所	森本高春
〃	内川寿美男
〃	高橋国次郎
栄金属工芸社	鈴木信一
浅野板金加工所	丸山竜一
(熱田南)	
佐橋板金工業	佐橋宮一
(中川港)	
朝日板金工作所	福島源三
〃	山田耕一
〃	小杉浅次郎
〃	福島藤吉
〃	青木義夫
〃	近藤康弘
〃	本山忠
高木板金工作所	高木年彦
早川板金	岡本静
(緑)	
伊藤建板社	中林宗一
(知多)	
渡会板金	渡会孝一
磯崎板金工業所	長尾二郎
(岡崎)	
高柳板金工業	神谷守
〃	高柳義親
山本板金	竹内博
(豊田)	
藤井板金工業所	中根鉄男
浅沼ブリキ店	浅沼清治
(刈谷)	
神谷板金	藤森邦夫
酒井板金工作所	酒井睦夫
(西尾)	
杉浦板金工業所	加藤利夫
毛利板金工業所	水野長一
(東三)	
足立板金工業所	平野輝男
〃	奥山勝由
大道工業	伊藤利夫
縞縞板金	富安正男
津田板金	滓田芳司
一五年	
(千種)	
章栄鈑金工業所	石橋忠承
徳田板金工業所	鈴木春男
(東北)	
堀口板金工業所	北原利美
〃	坂下良一
〃	亀山純介
三協工業	山田勉
江本鈑金工業所	江本紀幸
〃	江本祐博
栗田板金工業所	栃川末志
〃	武井博
〃	青山孝
伊藤鈑金	中村勝義
〃	霜村善雄
〃	下原正資
美金板金店	中島時夫
竹原鈑金工業所	平野寛
明建	瀬の口昭雄
(瑞穂)	
石浜板金工作所	木下寛
〃	加藤達幸
(熱田南)	
杉本鈑金工作所	谷栄一
(中)	
竹内金属工業	清水光好
大竹金属	松井利一
〃	清水利信
藤金製作所	南里松市
栄金属工芸社	岡田司
(中川港)	
余語板金加工所	余語清
〃	藤木京二
山畑金属工業	後藤金次
朝日板金工作所	大島邦雄
〃	久田すゞゑ
〃	内山梅子
(緑)	
花井板金工業	久下勝己
(一宮)	
服部板金店	桑原昌信
森銀	平田仁
(瀬戸)	
秋田板金店	秋田和夫
(岡崎)	
織田板金工作所	石川啓行
山内板金	坂井秀也
高柳板金工業	下松彦七
尾花鋼機製作所	加藤哲夫
(豊田)	
三村鈑金店	三村猛
(西尾)	
村松鈑金店	尾崎四七三郎
〃	片山正信
杉浦板金工業所	吉見諸三
(東三)	
朝倉板金工業所	水野広三
岩瀬板金	池田弘
白井板金	藤田将夫
足立板金工業所	木下鉄二
赤川工業	水谷正勝
井口板金	井口由夫
〃	片山修
鈴木板金	鈴木茂一
岩瀬製作所	松崎幸一
仲井板金	渋谷茂治
大友板金加工所	大友八郎
一〇年	
(東北)	
鈴木板金工業所	鈴木幹彦
石黒鈑金	石黒久男
伊藤鈑金	吉留重善
〃	伊藤徳三
〃	吉田兼一
中村鈑金工業所	中村良昭
竹原鈑金工業所	水井三郎
〃	稲葉高志
(中)	
竹内金属工業	河合鉦三
〃	堀田清一
〃	市橋一
浅野板金加工所	山守義
(昭和)	
川村板金工業所	今野光夫
(瑞穂)	
石浜板金工作所	村上実
佐々木板金工作所	藤山徹
(熱田南)	
浅原板金工業所	公文義広
佐橋板金工業	小山初男
(中川港)	
朝日板金工作所	福山十一
〃	大野正男
〃	藤金次郎
〃	大野ムメ
服部板金加工所	服部正良
坂製作所	伊藤美純
(緑)	
花井板金工業	花井和信
〃	花井正恵
(一宮)	
野田板金店	林八代吉
神田板金店	馬場長吉
服部板金店	源栄一郎
旭板金店	旭忠孝
〃	岡部晴美
(瀬戸)	
大山板金加工所	大山隆
梅村板金店	梅村英康
ユタカ板金	磯村豊近
(知多)	
榊原板金	上原治夫
清水板金工業	花植清雄
沼沢工業所	斉藤孝一
〃	阿部幸一
〃	佐々木恒雄
〃	佐々木輝雄
斉藤板金工業所	蓮池美郎
(刈谷)	
橋本板金工作所	横井載典
(西尾)	
杉浦板金工業所	荒居邦夫
(岡崎)	
山内板金	山内和夫
尾花鋼機製作所	杉山正美
(豊田)	
伊藤板金工業所	伊藤博行
三浦板金店	三浦一美
〃	上田初男
(東三)	
朝倉板金工業所	深見厚夫
〃	市川演已
〃	原田正広

(次頁へ)

断熱屋根材
折版屋根材 } 成型品

カクイチ
ダンネツ鋼板

ダンネツ550タイプ
ダンネツ600タイプ
ダンネツ波板
ダンネツ瓦棒Mタイプ



総発売元 株式会社 カクイチ
名古屋営業所 名古屋市東市水筒先町3－4 電話(代)936－3616
(ヒビノビル3階)
東京・大阪・長岡・上田・浦和・相模原・前橋・大阪

白井板金　白井　崇
赤川板金　赤川一久
赤川工業　赤川昌久
大道工業　山口芳之
〃　須藤彦蔵
〃　服部　清
〃　渡辺満寿夫
〃　国枝　彰
〃　佐藤定男
〃　朝倉　長
豊栄産業　鈴木弘之
朝倉板金　朝倉利政
山本板金所　山本孝義
小林板金　黒田室人
岩瀬製作所　藤原武一
〃　白井義治
日豊製作所　内藤嘉人
伊藤板金加工所　和田和彦
仲井板金　鈴木孝光
近藤板金製作所　大谷吉之
井上板金　井上欽二
（事業所法人名略）

よそごとでない
★★★★★★★★
墜落災害の恐しさ

四月……組合員二人の死亡

（全国安全週間にあたって）

先々月本組合から、組合員（事業主）二人の作業中の墜落死亡事故が発生した。

一人は四月二日、折版工事の監督中、十五米の高所から風にあおられて墜落、重傷から意識不明のまま、四日目に亡くなられた理事の伊藤新蔵氏。

今一人東北の青地二郎氏は四月三十日、谷樋の工事中うっかり母屋を外して置いてあったスレートに足をかけて、四米の高さから真っ逆さまに落ちて即死。前者は七十二才。後者は六十二才、何れも高年令で現場の経験も豊富で、軽率でも無かったろうに、誠にお気の毒なことである。

実際墜落災害は恐ろしい。死亡に直結するからである。愛知県の去年一年間の労働墜落死亡事故は四一件で、建設業関係の死亡事故の四四%を占めている。

もともと建設関係では事業現場が「これから造る」もの即ち、未完成であるため、工業内の作業と違って危険度の高い訳で、同じく四八年の県内労働死亡二五三件のうち九三件、三七%が建設関係の死亡なのである。

昭和四十七年十月一日より施行されている労働安全衛生法では、その規則にも各条に亘って、保護帽、命綱の着用、安全ネット、足場板、作業床の設置等こまかく注意してあるし又、各建設会社方面でも、現場災害防止には可成り神経をつかって、努力をしていることは事実である。

然し一瞬の不注意が総ての防災努力を無にして、不幸のどん底に落す。事故の有った後に悔んでも仕方がないけれども、事故は必ずしも不可抗力とはいい切れない。各々自身の心構えが第一である。

労働安全衛生の基本は、平素の細心の注意にある。健康度（睡眠不足、体の不調、疲労、二日酔）、安全施設、現場の整理整頓、安全服装（保護帽、作業衣、履物）、安全管理、監督、点検等々、これらすべてに留意したならば、事故は有る程度防止出来、又少なくなることは確かである。

航空機の墜落は乗客全滅であり、交通事故災害も多い。然し危険度の確率からすれば、建設業関係の災害は圧倒的に高い。

お互に毎日、こうした危険のなかに作業し日常生活をしているのであるから、災害防止には極力留めて頂きたい。事故の有る無しは家庭の明るさ暗さに直結することを充分わきまえて頂きたい。

（たまたま重なった四月の死亡、故から）

カラー鉄板　鉄鋼建材　一般鋼材
エスロン雨どい　トーヨー雨どい　ナショナル雨どい
株式会社 武豊屋商店名古屋営業所
名古屋市西区丸野2－53　TEL(052)502－7331(代)
本社　半田市栄町4－166　TEL(0569)21－5351(代)

支部だより（豊田）

豊田支部（支部長理事松井住）では好天にめぐまれた五月二六日（日）午前九時より、第二回のソフトボール大会を、豊田市越戸町の白浜公園に於て行ない、参加者を班別対抗で四チームに編成し、リーグ戦の結果次の成績となった。

一班・二勝一敗、二班一勝二敗、三班三敗、四班は女性一人を含んで健斗三戦三勝で優勝と決定。それぞれ賞品が贈られた。

豊田地区板金組合として前回と同様、各組合員家族並びに従業員の親睦を図ることを目的としたリクレーションで、楽しい一日を過したが、今後もこうした機会を沢山持ちたいと思っている。

新加入

林　光男　岡崎市下青野町番城五－三
山口厳夫　〃　中之郷町字元山甲八四
原田　豊　〃　井内町下河原一三－一
鈴木正吾　〃　龍泉寺町字前田一二
白川次男　〃　洞町字五位原一七
本郷富計　〃　康生通西四ノ五二
中野勝康　〃　蓑川町字西屋敷二〇
内藤栄治　〃　東蔵前打山
原田和雄　〃　矢矧町字末広四七－九
佐々木信勝　名古屋市北区敷島町一〇四
川崎二三男　中島郡祖父江町下沼四一

鉄骨建築に…
富士波ラスシート
TOHO 東邦シートフレーム株式会社
名古屋営業所 ☎(582)〇四四一

後記

例年のこと乍ら通常総代会を終えること、一息というところである。然も今年は三年ぶりに永年勤続従業員の表彰式も併せ行なわれた。

勤続二十年といえばずいぶん長い。就業制度、福祉厚生施設が充分でない板金工業の事業場で黙々と働き蔭になって事業主を扶けた功績は顕著なものがある。

推薦のなかには三十年、四十年の勤続者もいた。

一面から考えると、自己営業の野心はなく、ひたすら技能一途に勉めて、働くことに生き甲斐を見出だす人もあること思う。

人間誰しも事業慾はあり儲けたい気持ちに変りはない。そのなかに永く勤務する人の考えを押し計ると、居りたい。居らなければ、知らず知らずに、又は居り易いから等々分析出来るけれども、何よりも大きいのは、事業主との相互の心の交り合ったつながりではないだろうか。零細な板金企業に於ては、官公庁や、大企業のような、恩給、年金は望めないけれども、これに劣らないだけの待遇はしなければならない。

働く人の足りない今の時代に、永く居てくれる人は本当に宝である。大切にして常にいたわることである

大同Pデッキ　ヨドルーフ
販売・責任施工　船津建設株式会社
名古屋市昭和区広路本町4－48
TEL(052)852－6411(代表)〒466